

**製品名: PFK-2 car (リン酸化 Ser483) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab05241**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	58kDa

**抗原情報**

遺伝子名	PFKFB2
別名	PFKFB2; 6-phosphofructo-2-kinase/fructose-2; 6-bisphosphatase 2; 6PF-2-K/Fru-2,6-P2ase 2; PFK/FBPase 2; 6PF-2-K/Fru-2,6-P2ase heart-type isozyme
遺伝子 ID	5208.0
SwissProt ID	O60825
免疫原	抗血清は、ヒト PFKFB2 の Ser483 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 451-500

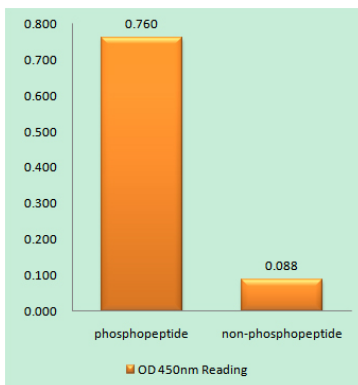
**背景**

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、真核生物における解糖系を制御する調節分子であるフルクトース-2,6-ビスリン酸の合成と分解の両方に関与しています。コードされるタンパク質は、フルクトース-2,6-ビスリン酸の合成を触媒する 6-ホスホフルクト-2-キナーゼ活性と、フルクトース-2,6-ビスリン酸の分解を触媒するフルクトース-2,6-ビスホスファターゼ活性を有しています。このタンパク質は心臓におけるフルクトース-2,6-ビスリン酸濃度を調節する一方、別の遺伝子によってコードされる関連酵素は肝臓および筋肉におけるフルクトース-2,6-ビスリン酸濃度を調節します。この酵素はホモ二量体として機能します。この遺伝子には、2つの異なるアイソフォームをコードする2つの転写バリエーションが見つっています。 [RefSeq 提供、2008年7月],触媒活性:  $ATP + D\text{-フルクトース 6-リン酸} = ADP + \beta\text{-D-フルクトース 2,6-ビスリン酸}$ 。触媒活性:  $\beta\text{-D-フルクトース 2,6-ビスリン酸} + H(2)O = D\text{-フルクトース 6-リン酸} + \text{リン酸}$ 。酵素調節: リン酸化はキナーゼ活性の活性化をもたらす。機能: フルクトース 2,6-ビスリン酸の合成と分解。類似性: C末端領域に存在。ホスホグリセリン酸ムターゼファミリーに属する。サブユニット: ホモ二量体。組織特異性: 心臓。

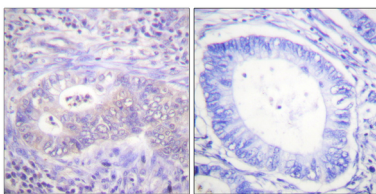
## 研究分野

フルクトースおよびマンノースの代謝;

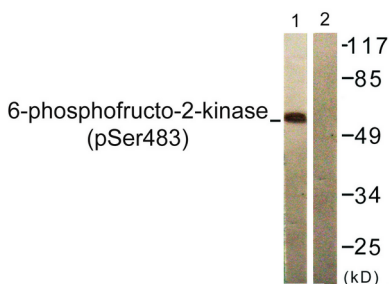
## 画像データ



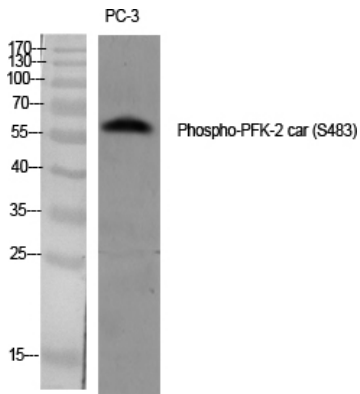
PFKFB2 (リン酸化 Ser483) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



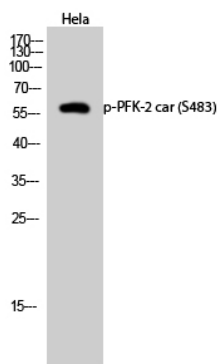
PFKFB2 (リン酸化 Ser483) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト大腸癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



熱ショック処理した 293 細胞ライセートの PFKFB2 (リン酸化 Ser483) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 PFK-2 car (S483) ポリクローナル抗体 (1: 1000 希釈) を用いた各種細胞のウエスタンブロット解析



ホスホ PFK-2 car (S483) ポリクローナル抗体 (1: 1000 希釈) を用いた HeLa 細胞のウエスタンブロット解析